

現行条文（令和4年版）					新条文（令和5年版）					改定理由		
編	章	節	条	項以下	編	章	節	条	項以下			
3	1	1	7	4	2	3	1	1	7	4	2	更新
3	1	1	7	6	2	3	1	1	7	6	2	更新
3	2	2	0	0	3	3	2	2	0	0	3	改定までの経過を明示
3	2	2	0	0	14	3	2	2	0	0	14	更新
3	2	2	0	0	16	3	2	2	0	0	16	修正
3	2	2	0	0	19	3	2	2	0	0	19	修正
3	2	2	0	0	20	3	2	2	0	0	20	修正
3	2	2	0	0	47	3	2	2	0	0	47	改定
						3	2	2	0	0	48	新規追加
3	2	3	2	4	10	3	2	3	2	4	10	改定
3	2	3	10	1	1	3	2	3	10	1	1	改定
3	2	3	13	3	13	3	2	3	13	3	13	改定
3	2	3	14	2	4	3	2	3	14	2	4	改定
3	2	4	4	21	14	3	2	4	4	21	14	改定
3	2	4	5	113	1	3	2	4	5	113	1	改定
3	2	4	7	7	1	3	2	4	7	7	1	改定
3	2	5	3	2	1	3	2	5	3	2	1	改定
3	2	5	3	4	1	3	2	5	3	4	1	改定
3	2	6	7	4	16	3	2	6	7	4	16	改定
3	2	6	16	2	1	3	2	6	16	2	1	改定
3	2	7	6	1	1	3	2	7	6	1	1	改定
3	2	10	1	1	1	3	2	10	1	1	1	改定
3	2	10	8	2	1	3	2	10	8	2	1	改定
3	2	12	2	7	7	3	2	12	2	7	7	改定
3	2	12	3	1	119	3	2	12	3	1	119	改定
3	2	15	3	9	1	3	2	15	3	9	1	改定
3	2	17	3	1	1	3	2	17	3	1	1	改定
3	2	17	3	2	1	3	2	17	3	2	1	改定
6	1	1	0	6	1	6	1	1	0	6	1	改定
6	3	2	0	2	5	6	3	2	0	2	5	改定
6	3	2	0	5	7	6	3	2	0	5	7	改定
6	3	5	6	6	8	6	3	5	6	6	8	改定
6	4	16	3	0	2	6	4	16	3	0	2	改定
6	5	1	0	5	1	6	5	1	0	5	1	改定
7	2	5	4	1	1	7	2	5	4	1	1	改定

現行条文 (令和4年版)					新条文 (令和5年版)					改定理由																												
編	章	節	項	編章節条項 (項目見出し)	編	章	節	項	編章節条項 (項目見出し)		新条文																											
7	2	5	11	12	12. ゲート閉鎖	7	2	5	11	12	12. ゲート閉鎖	受注者は、ゲート閉鎖は、進水に先立ちドック戸当たり近辺の異物及び埋設土砂を除去、清掃し、ゲート本体の保護に努めなければならない。	受注者は、ゲート閉鎖は、進水に先立ちドック戸当たり近辺の異物及び埋設土砂を除去、清掃し、ゲート本体の保護に努めなければならない。	誤植																								
7	2	5	11	24	24. 曳航、回航にあつての事故防止	7	2	5	11	24	24. 曳航、回航にあつての事故防止	受注者は、クレーン曳航、回航にあつては、監視を十分にに行い、他航行船舶との事故防止に努めなければならない。	受注者は、クレーン曳航、回航にあつては、監視を十分にに行い、他航行船舶との事故防止に努めなければならない。	誤植																								
8	1	2	0	0	4	土木学会「コンクリート標準示方書(ダムコンクリート編) (平成25年10月)	8	1	2	0	0	4	土木学会「コンクリート標準示方書(ダムコンクリート編) (2013年制定) (2013年10月)	8	1	2	0	0	4	土木学会「コンクリート標準示方書(施工編) (平成30年3月)	8	1	2	0	0	5	土木学会「コンクリート標準示方書(施工編) (2017年制定) (2018年3月)	誤植										
8	1	8	1	1	1	1. 適用工種	8	1	8	1	1	1	1. 適用工種	8	1	8	1	1	1	1	1. 適用工種	8	1	8	1	1	1	1. 適用工種	本節は、コンクリート築造工として作業土工(床掘り、埋戻し)、埋戻し工、コンクリート堰堤本体工、コンクリート側壁工、コンクリート副堰堤工、間詰工、水叩工その他これらに類する工種について定める。	8	1	8	1	1	1	1. 適用工種	本節は、コンクリート築造工として作業土工(床掘り、埋戻し)、埋戻し工、コンクリート堰堤本体工、コンクリート副堰堤工、コンクリート側壁工、間詰工、水叩工その他これらに類する工種について定める。	誤植
8	3	2	0	0	5	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計施工指針 (平成25年10月)	8	3	2	0	0	5	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計・施工指針 (平成25年10月)	8	3	2	0	0	5	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計・施工指針 (平成25年10月)	8	3	2	0	0	5	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計・施工指針 (平成25年10月)	修正										
8	3	2	0	0	10	地盤工学会「グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説 (平成24年5月)	8	3	2	0	0	10	地盤工学会「グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説 (平成24年5月)	8	3	2	0	0	10	地盤工学会「グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説 (平成24年5月)	8	3	2	0	0	10	地盤工学会「グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説 (平成24年5月)	修正										
8	3	2	0	0	12	斜面防災対策技術協会 新版地すべり鋼管杭設計要綱 (平成28年3月)	8	3	2	0	0	12	斜面防災対策技術協会 新版 地すべり鋼管杭設計要綱 (平成28年3月)	8	3	2	0	0	12	斜面防災対策技術協会 新版 地すべり鋼管杭設計要綱 (平成28年3月)	8	3	2	0	0	12	斜面防災対策技術協会 新版 地すべり鋼管杭設計要綱 (平成28年3月)	スペース										
8	3	5	1	0	2	本節は、擁壁工として作業土工(既製杭工、場所打擁壁工、プレキャスト擁壁工、補強土壁工、井桁ブロック工、落石防護工、その他これらに類する工種について定める。	8	3	5	1	0	2	本節は、擁壁工として作業土工(床掘り・埋戻し)、既製杭工、場所打擁壁工、プレキャスト擁壁工、補強土壁工、井桁ブロック工、落石防護工、その他これらに類する工種について定める。	8	3	5	1	0	2	本節は、擁壁工として作業土工(床掘り・埋戻し)、既製杭工、場所打擁壁工、プレキャスト擁壁工、補強土壁工、井桁ブロック工、落石防護工、その他これらに類する工種について定める。	8	3	5	1	0	2	本節は、擁壁工として作業土工(床掘り・埋戻し)、既製杭工、場所打擁壁工、プレキャスト擁壁工、補強土壁工、井桁ブロック工、落石防護工、その他これらに類する工種について定める。	誤植										
8	3	6	1	1	1	1. 適用工種	8	3	6	1	1	1	1. 適用工種	8	3	6	1	1	1	1. 適用工種	8	3	6	1	1	1	1. 適用工種	本節は、山腹水路工として作業土工(山腹水路・排水路工、山腹明暗渠工、山腹暗渠工、集水路工、現場排水路工その他これらに類する工種について定める。	8	3	6	1	1	1	1. 適用工種	本節は、山腹水路工として作業土工(床掘り・埋戻し)、山腹水路工・排水路工、山腹明暗渠工、山腹暗渠工、現場排水路工、集水路工その他これらに類する工種について定める。	誤植	
8	3	9	1	3	1	3. 杭建て込みのための削孔	8	3	9	1	3	1	3. 杭建て込みのための削孔	8	3	9	1	3	1	3. 杭建て込みのための削孔	8	3	9	1	3	1	3. 杭建て込みのための削孔	受注者は、杭建て込みのための削孔にあつては、地形図、土質性状図等を検討して、地山のかく乱、地すべり等の誘発を避けるように施工しなければならない。	8	3	9	1	3	1	3. 杭建て込みのための削孔	受注者は、杭建て込みのための削孔にあつては、地形図、土質性状図等を検討して、地山のかく乱、地すべり等の誘発を避けるように施工しなければならない。	誤植	
8	3	9	3	3	1	3. 人工泥水	8	3	9	3	3	1	3. 人工泥水	8	3	9	3	3	1	3. 人工泥水	8	3	9	3	3	1	3. 人工泥水	受注者は、削孔に人工泥水を用いる場合は、沈降や排水路等からの水の溢流、地盤への浸透を避けなければならない。	8	3	9	3	3	1	3. 人工泥水	受注者は、削孔に人工泥水を用いる場合は、沈降や排水路等からの水の溢流、地盤への浸透を避けなければならない。	誤植	
9	1	2	0	0	4	土木学会「コンクリート標準示方書(ダムコンクリート編) (平成25年10月)	9	1	2	0	0	4	土木学会「コンクリート標準示方書(ダムコンクリート編) (2013年制定) (2013年10月)	9	1	2	0	0	4	土木学会「コンクリート標準示方書(ダムコンクリート編) (平成25年10月)	9	1	2	0	0	4	土木学会「コンクリート標準示方書(ダムコンクリート編) (平成25年10月)	誤植										
9	1	9	5	1	2	なお、設計図書に示す予定値前編は、岩質の状況により監督職員が変更する場合があるものとする。	9	1	9	5	1	2	なお、設計図書に示す予定値前編は、岩質の状況により監督職員が変更を指示する場合があるものとする。	9	1	9	5	1	2	なお、設計図書に示す予定値前編は、岩質の状況により監督職員が変更を指示する場合があるものとする。	9	1	9	5	1	2	なお、設計図書に示す予定値前編は、岩質の状況により監督職員が変更を指示する場合があるものとする。	文言追加										
9	1	4	7	4	1	4. バケットの構造	9	1	4	7	4	1	4. バケットの構造	9	1	4	7	4	1	4. バケットの構造	9	1	4	7	4	1	4. バケットの構造	バケットの構造は、コンクリートの投入及び排出の際に材料の分離を起こさないものであり、また、バケットからのコンクリートの排出が容易でかつ速やかなものとする。	9	1	4	7	4	1	4. バケットの構造	バケットの構造は、コンクリートの投入及び排出の際に材料の分離を起こさないものであり、また、バケットからのコンクリートの排出が容易でかつ速やかなものとする。	句点	
9	1	4	9	8	1	6. 異コンクリートの打継ぎ	9	1	4	9	8	1	6. 異コンクリートの打継ぎ	9	1	4	9	8	1	6. 異コンクリートの打継ぎ	9	1	4	9	8	1	6. 異コンクリートの打継ぎ	受注者は、異なるコンクリートを打継ぐ場合には、その移り目で、配合の急変を避けるようコンクリートを打込まなければならない。	9	1	4	9	8	1	6. 異コンクリートの打継ぎ	受注者は、異なるコンクリートを打継ぐ場合には、その移り目で、配合の急変を避けるようコンクリートを打込まなければならない。	誤植	
9	2	3	3	2	1	2. 過剰の処理	9	2	3	3	2	1	2. 過剰の処理	9	2	3	3	2	1	2. 過剰の処理	9	2	3	3	2	1	2. 過剰の処理	受注者は、過剰をした場合は、その処理について監督職員と協議しなければならない。	9	2	3	3	2	1	2. 過剰の処理	受注者は、過剰をした場合は、その処理について監督職員と協議しなければならない。	誤植	
9	2	4	1	6	1	6. オーバーサイズの除去	9	2	4	1	6	1	6. オーバーサイズの除去	9	2	4	1	6	1	6. オーバーサイズの除去	9	2	4	1	6	1	6. オーバーサイズの除去	受注者は、 まき 出し時のコア材及びフィルター材のオーバーサイズ等は、除去しなければならない。	9	2	4	1	6	1	6. オーバーサイズの除去	受注者は、 まき 出し時のコア材及びフィルター材のオーバーサイズ等は、除去しなければならない。	誤植	
9	2	4	5	2	1	2. まき出し	9	2	4	5	2	1	2. まき出し	9	2	4	5	2	1	2. まき出し	9	2	4	5	2	1	2. まき出し	受注者は、まき出しにあつては、ダム軸と平行に、平ら面となるように施工しなければならない。	9	2	4	5	2	1	2. まき出し	受注者は、まき出しにあつては、ダム軸と平行に、平ら面となるように施工しなければならない。	誤植	
9	2	4	5	3	1	3. まき出し厚と転圧	9	2	4	5	3	1	3. まき出し厚と転圧	9	2	4	5	3	1	3. まき出し厚と転圧	9	2	4	5	3	1	3. まき出し厚と転圧	受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によりなければならない。	9	2	4	5	3	1	3. まき出し厚と転圧	受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によりなければならない。	誤植	
9	2	4	5	4	1	4. まき出し材料の含水比	9	2	4	5	4	1	4. まき出し材料の含水比	9	2	4	5	4	1	4. まき出し材料の含水比	9	2	4	5	4	1	4. まき出し材料の含水比	受注者は、まき出された材料が、設計図書に示す含水比を確保できない場合には、設計図書に関して、監督職員の指示に従い処置しなければならない。	9	2	4	5	4	1	4. まき出し材料の含水比	受注者は、まき出された材料が、設計図書に示す含水比を確保できない場合には、設計図書に関して、監督職員の指示に従い処置しなければならない。	誤植	
9	2	4	5	5	1	5. 層間の密着性の確保	9	2	4	5	5	1	5. 層間の密着性の確保	9	2	4	5	5	1	5. 層間の密着性の確保	9	2	4	5	5	1	5. 層間の密着性の確保	受注者は、既に締固めた層の表面が過度に乾燥、濡潤または平滑となっており上層との密着が確保できない場合には、監督職員の指示に従い、散水あるいはスクリュー等による方法で処理し、この部分の締固め完了後にまき出しを行わなければならない。	9	2	4	5	5	1	5. 層間の密着性の確保	受注者は、既に締固めた層の表面が過度に乾燥、濡潤または平滑となっており上層との密着が確保できない場合には、監督職員の指示に従い、散水あるいはスクリュー等による方法で処理し、この部分の締固め完了後にまき出しを行わなければならない。	誤植	
9	2	4	6	2	1	2. まき出し	9	2	4	6	2	1	2. まき出し	9	2	4	6	2	1	2. まき出し	9	2	4	6	2	1	2. まき出し	受注者は、まき出しにあつては、ダム軸と平行に、平ら面となるように施工しなければならない。	9	2	4	6	2	1	2. まき出し	受注者は、まき出しにあつては、ダム軸と平行に、平ら面となるように施工しなければならない。	誤植	
9	2	4	6	3	1	3. まき出し厚と転圧	9	2	4	6	3	1	3. まき出し厚と転圧	9	2	4	6	3	1	3. まき出し厚と転圧	9	2	4	6	3	1	3. まき出し厚と転圧	受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によりなければならない。	9	2	4	6	3	1	3. まき出し厚と転圧	受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によりなければならない。	誤植	
9	2	4	6	4	1	4. まき出し材料の粒度	9	2	4	6	4	1	4. まき出し材料の粒度	9	2	4	6	4	1	4. まき出し材料の粒度	9	2	4	6	4	1	4. まき出し材料の粒度	受注者は、まき出された材料が、設計図書に示す粒度と合致していない場合には、監督職員の指示に従い処置しなければならない。	9	2	4	6	4	1	4. まき出し材料の粒度	受注者は、まき出された材料が、設計図書に示す粒度と合致していない場合には、監督職員の指示に従い処置しなければならない。	誤植	
9	2	4	7	2	1	2. まき出し	9	2	4	7	2	1	2. まき出し	9	2	4	7	2	1	2. まき出し	9	2	4	7	2	1	2. まき出し	受注者は、まき出しにあつては、ダム軸と平行に、平ら面となるように施工しなければならない。	9	2	4	7	2	1	2. まき出し	受注者は、まき出しにあつては、ダム軸と平行に、平ら面となるように施工しなければならない。	誤植	
9	2	4	7	3	1	3. まき出し厚と転圧	9	2	4	7	3	1	3. まき出し厚と転圧	9	2	4	7	3	1	3. まき出し厚と転圧	9	2	4	7	3	1	3. まき出し厚と転圧	受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によりなければならない。	9	2	4	7	3	1	3. まき出し厚と転圧	受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によりなければならない。	誤植	
9	2	4	7	4	1	4. 大塊・小塊のまき出し	9	2	4	7	4	1	4. 大塊・小塊のまき出し	9	2	4	7	4	1	4. 大塊・小塊のまき出し	9	2	4	7	4	1	4. 大塊・小塊のまき出し	受注者は、小塊を基礎地盤または基礎岩盤及びフィルター側にまき出さなければならない。また、大塊は、堤体外側になるようにまき出さなければならない。	9	2	4	7	4	1	4. 大塊・小塊のまき出し	受注者は、小塊を基礎地盤または基礎岩盤及びフィルター側にまき出さなければならない。また、大塊は、堤体外側になるようにまき出さなければならない。	誤植	
10	1	2	0	0	3	なお、基準値と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	10	1	2	0	0	3	なお、基準値と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	10	1	2	0	0	3	なお、基準値と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	10	1	2	0	0	3	なお、基準値と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	10	1	2	0	0	3	なお、基準値と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	改定までの読書説明			
10	1	2	0	0	13	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計施工指針 (平成25年10月)	10	1	2	0	0	13	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計・施工指針 (平成25年10月)	10	1	2	0	0	13	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計・施工指針 (平成25年10月)	10	1	2	0	0	13	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計・施工指針 (平成25年10月)	修正										
10	1	2	0	0	14	日本道路協会「落石対策便覧 (平成12年6月)	10	1	2	0	0	14	日本道路協会「落石対策便覧 (平成29年12月)	10	1	2	0	0	14	日本道路協会「落石対策便覧 (平成29年12月)	10	1	2	0	0	14	日本道路協会「落石対策便覧 (平成29年12月)	発行日修正										
10	1	2	0	0	20	日本建設機械化協会「除雪・防雪バンドブック (除雪編) (平成16年12月)	10	1	2	0	0	20	日本建設機械化協会「除雪・防雪バンドブック (除雪編) (平成16年12月)	10	1	2	0	0	20	日本建設機械化協会「除雪・防雪バンドブック (除雪編) (平成16年12月)	10	1	2	0	0	20	日本建設機械化協会「除雪・防雪バンドブック (除雪編) (平成16年12月)	修正										
10	1	2	0	0	22	日本みち研究所「補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説- (平成29年11月)	10	1	2	0	0	22	日本みち研究所「補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説- (平成29年11月)	10	1	2	0	0	22	日本みち研究所「補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説- (平成29年11月)	10	1	2	0	0	22	日本みち研究所「補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説- (平成29年11月)	スペース										
10	2	2	0	0	26	日本みち研究所「補訂版道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説- (平成29年11月)	10	2	2	0	0	26	日本みち研究所「補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説- (平成29年11月)	10	2	2	0	0	26	日本みち研究所「補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説- (平成29年11月)	10	2	2	0	0	26	日本みち研究所「補訂版 道路のデザイン-道路デザイン指針(案)とその解説- (平成29年11月)	スペース										
10	2	5	1	2	1	2. 適用規定	10	2	5	1	2	1	2. 適用規定	10	2	5	1	2	1	2. 適用規定	10	2	5	1	2	1	2. 適用規定	排水構造物工(路面排水工)の施工については、道路土工要綱の排水施設の施工の規定及び本編 10編10-2-5-3側溝工、10-2-5-5集水溝(街渠溝)、マンホール工の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	10	2	5	1	2	1	2. 適用規定	排水構造物工(路面排水工)の施工については、道路土工要綱の排水施設の施工の規定及び本編 10編10-2-5-3側溝工、10編10-2-5-5集水溝(街渠溝)、マンホール工の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	表記の統一	
10	2	8	1	3	1	3. 適用規定	10	2	8	1	3	1	3. 適用規定	10	2	8	1	3	1	3. 適用規定	10	2	8	1	3	1	3. 適用規定	受注者は、防護柵の施工にあ										

No.	図表番号等	現行	修正後	修正内容																																																																																																						
1	表3-2-10 要求性能の 確認方法	<table border="1"> <caption>表3-2-10 要求性能の確認方法</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">要求性能</th> <th colspan="3">確認方法</th> </tr> <tr> <th>試験方法</th> <th>試験条件</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母材の健全性</td> <td>母材が健全であること</td> <td>JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影</td> <td>メッキを剥いだ状態で母材鉄線の表面撮影</td> <td>母材に傷が付いていないこと</td> </tr> </tbody> </table>	項目	要求性能	確認方法			試験方法	試験条件	基準値	母材の健全性	母材が健全であること	JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	メッキを剥いだ状態で母材鉄線の表面撮影	母材に傷が付いていないこと	<table border="1"> <caption>表3-2-10 要求性能の確認方法</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">要求性能</th> <th colspan="3">確認方法</th> </tr> <tr> <th>試験方法</th> <th>試験条件</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母材の健全性</td> <td>母材が健全であること</td> <td>JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影</td> <td>メッキを剥いだ状態で母材鉄線の表面撮影</td> <td>母材に傷が付いていないこと</td> </tr> </tbody> </table>	項目	要求性能	確認方法			試験方法	試験条件	基準値	母材の健全性	母材が健全であること	JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	メッキを剥いだ状態で母材鉄線の表面撮影	母材に傷が付いていないこと	JISの改正																																																																												
項目	要求性能	確認方法																																																																																																								
		試験方法	試験条件	基準値																																																																																																						
母材の健全性	母材が健全であること	JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	メッキを剥いだ状態で母材鉄線の表面撮影	母材に傷が付いていないこと																																																																																																						
項目	要求性能	確認方法																																																																																																								
		試験方法	試験条件	基準値																																																																																																						
母材の健全性	母材が健全であること	JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	メッキを剥いだ状態で母材鉄線の表面撮影	母材に傷が付いていないこと																																																																																																						
2	表3-2-12 線材の品質 管理試験の 内容	<table border="1"> <caption>表3-2-12 線材の品質管理試験の内容</caption> <thead> <tr> <th>項目 試験箇所</th> <th>試験項目</th> <th>基準値</th> <th>試験方法</th> <th>試験の頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">工場</td> <td>線径</td> <td>3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線*1に1回</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td>290N/mm以上</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>ねじり特性</td> <td>JIS G 3547の4.3</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>巻付性</td> <td>線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ成分</td> <td>※2</td> <td>原子吸光分析法、またはICP発光分析法</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ付着量</td> <td>※2</td> <td>JIS H 0401準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">公的試験機関</td> <td>線径</td> <td>3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td>290N/mm以上</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>母材の健全性</td> <td>母材に傷が付いていないこと</td> <td>JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ成分</td> <td>※2</td> <td>原子吸光分析法、またはICP発光分析法</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ付着量</td> <td>※2</td> <td>JIS H 0401準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> </tbody> </table>	項目 試験箇所	試験項目	基準値	試験方法	試験の頻度	工場	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	5巻線*1に1回	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	ねじり特性	JIS G 3547の4.3	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	巻付性	線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	5巻線に1回	メッキ付着量	※2	JIS H 0401準拠	5巻線に1回	公的試験機関	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	200巻線に1回	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	200巻線に1回	母材の健全性	母材に傷が付いていないこと	JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	200巻線に1回	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	200巻線に1回	メッキ付着量	※2	JIS H 0401準拠	200巻線に1回	<table border="1"> <caption>表3-2-12 線材の品質管理試験の内容</caption> <thead> <tr> <th>項目 試験箇所</th> <th>試験項目</th> <th>基準値</th> <th>試験方法</th> <th>試験の頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">工場</td> <td>線径</td> <td>3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線*1に1回</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td>290N/mm以上</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>ねじり特性</td> <td>JIS G 3547の4.3</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>巻付性</td> <td>線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ成分</td> <td>※2</td> <td>原子吸光分析法、またはICP発光分析法</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ付着量</td> <td>※2</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>5巻線に1回</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">公的試験機関</td> <td>線径</td> <td>3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td>290N/mm以上</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>母材の健全性</td> <td>母材に傷が付いていないこと</td> <td>JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ成分</td> <td>※2</td> <td>原子吸光分析法、またはICP発光分析法</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> <tr> <td>メッキ付着量</td> <td>※2</td> <td>JIS G 3547準拠</td> <td>200巻線に1回</td> </tr> </tbody> </table>	項目 試験箇所	試験項目	基準値	試験方法	試験の頻度	工場	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	5巻線*1に1回	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	ねじり特性	JIS G 3547の4.3	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	巻付性	線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	5巻線に1回	メッキ付着量	※2	JIS G 3547準拠	5巻線に1回	公的試験機関	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	200巻線に1回	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	200巻線に1回	母材の健全性	母材に傷が付いていないこと	JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	200巻線に1回	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	200巻線に1回	メッキ付着量	※2	JIS G 3547準拠	200巻線に1回	JISの改正
項目 試験箇所	試験項目	基準値	試験方法	試験の頻度																																																																																																						
工場	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	5巻線*1に1回																																																																																																						
	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	ねじり特性	JIS G 3547の4.3	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	巻付性	線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	5巻線に1回																																																																																																						
	メッキ付着量	※2	JIS H 0401準拠	5巻線に1回																																																																																																						
公的試験機関	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	母材の健全性	母材に傷が付いていないこと	JIS H 0401の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	200巻線に1回																																																																																																						
	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	200巻線に1回																																																																																																						
	メッキ付着量	※2	JIS H 0401準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	項目 試験箇所	試験項目	基準値	試験方法	試験の頻度																																																																																																					
工場	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	5巻線*1に1回																																																																																																						
	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	ねじり特性	JIS G 3547の4.3	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	巻付性	線径の1.5倍の円筒に6回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	5巻線に1回																																																																																																						
	メッキ付着量	※2	JIS G 3547準拠	5巻線に1回																																																																																																						
公的試験機関	線径	3.2±0.09mm 4.0±0.10mm 5.0±0.12mm 6.0±0.12mm	JIS G 3547準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	引張強さ	290N/mm以上	JIS G 3547準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	母材の健全性	母材に傷が付いていないこと	JIS G 3547の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	200巻線に1回																																																																																																						
	メッキ成分	※2	原子吸光分析法、またはICP発光分析法	200巻線に1回																																																																																																						
	メッキ付着量	※2	JIS G 3547準拠	200巻線に1回																																																																																																						
	3	図3-2-6 耳芝	<p>図3-2-6 耳芝</p>	<p>図3-2-6 耳芝</p>	貼芝の表記を見やすく修正																																																																																																					

No.	図表番号等	現行	修正後	修正内容																																																																																		
4	表2-2-26 再生用添加剤の標準的性状	<p>表2-2-26 再生用添加剤の標準的性状 プラント再生用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>標準的性状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動粘度 (60℃)</td> <td>mm²/S 80~1,000</td> </tr> <tr> <td>引火点</td> <td>℃ 250以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱後の粘度比 (60℃)</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率</td> <td>% ±3以内</td> </tr> <tr> <td>密度 (15℃)</td> <td>g/cm³ 報告</td> </tr> <tr> <td>組成 (石油学会法JPI-5S-70-10)</td> <td>報告</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 密度は、旧アスファルトとの分離などを防止するため0.95g/cm³以上とすることが望ましい。</p>	項目	標準的性状	動粘度 (60℃)	mm ² /S 80~1,000	引火点	℃ 250以上	薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	2以下	薄膜加熱質量変化率	% ±3以内	密度 (15℃)	g/cm ³ 報告	組成 (石油学会法JPI-5S-70-10)	報告	<p>表2-2-26 再生用添加剤の標準的性状 プラント再生用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>標準的性状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動粘度 (60℃)</td> <td>mm²/S 80~1,000</td> </tr> <tr> <td>引火点</td> <td>℃ 250以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱後の粘度比 (60℃)</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率</td> <td>% ±3以内</td> </tr> <tr> <td>密度 (15℃)</td> <td>g/cm³ 報告</td> </tr> <tr> <td>組成 (石油学会規格JPI-5S-70-10)</td> <td>報告</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 密度は、旧アスファルトとの分離などを防止するため0.95g/cm³以上とすることが望ましい。</p>	項目	標準的性状	動粘度 (60℃)	mm ² /S 80~1,000	引火点	℃ 250以上	薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	2以下	薄膜加熱質量変化率	% ±3以内	密度 (15℃)	g/cm ³ 報告	組成 (石油学会規格JPI-5S-70-10)	報告	修正																																																						
項目	標準的性状																																																																																					
動粘度 (60℃)	mm ² /S 80~1,000																																																																																					
引火点	℃ 250以上																																																																																					
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	2以下																																																																																					
薄膜加熱質量変化率	% ±3以内																																																																																					
密度 (15℃)	g/cm ³ 報告																																																																																					
組成 (石油学会法JPI-5S-70-10)	報告																																																																																					
項目	標準的性状																																																																																					
動粘度 (60℃)	mm ² /S 80~1,000																																																																																					
引火点	℃ 250以上																																																																																					
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	2以下																																																																																					
薄膜加熱質量変化率	% ±3以内																																																																																					
密度 (15℃)	g/cm ³ 報告																																																																																					
組成 (石油学会規格JPI-5S-70-10)	報告																																																																																					
5	表3-2-31 接着剤の規格鋼床版用	<p>表3-2-31 接着剤の規格鋼床版用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>規格値</th> <th rowspan="2">試験法</th> </tr> <tr> <th>ゴムアスファルト系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不揮発分 (%)</td> <td>50以上</td> <td>JIS K 6833-1.2</td> </tr> <tr> <td>粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]</td> <td>5(0.5)以下</td> <td>JIS K 6833-1.2</td> </tr> <tr> <td>指触乾燥時間 (分)</td> <td>90以下</td> <td>JIS K 5800</td> </tr> <tr> <td>低温風曲試験 (-10℃, 3mm)</td> <td>合格</td> <td>JIS K 5800</td> </tr> <tr> <td>基盤目試験 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K 5800</td> </tr> <tr> <td>耐湿試験後の基盤目試験 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5804</td> </tr> <tr> <td>塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5800</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 基盤目試験の判定点は(一財)日本塗料検査協会「塗膜の評価基準」の標準判定写真による。</p>	項目	規格値	試験法	ゴムアスファルト系	不揮発分 (%)	50以上	JIS K 6833-1.2	粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]	5(0.5)以下	JIS K 6833-1.2	指触乾燥時間 (分)	90以下	JIS K 5800	低温風曲試験 (-10℃, 3mm)	合格	JIS K 5800	基盤目試験 (点)	10	JIS K 5800	耐湿試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5804	塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5800	<p>表3-2-31 接着剤の規格鋼床版用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>規格値</th> <th rowspan="2">試験法</th> </tr> <tr> <th>ゴムアスファルト系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不揮発分 (%)</td> <td>50以上</td> <td>JIS K 6833-1.2</td> </tr> <tr> <td>粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]</td> <td>5(0.5)以下</td> <td>JIS K 6833-1.2</td> </tr> <tr> <td>指触乾燥時間 (分)</td> <td>90以下</td> <td>JIS K 5800</td> </tr> <tr> <td>低温風曲試験 (-10℃, 3mm)</td> <td>合格</td> <td>JIS K 5800</td> </tr> <tr> <td>基盤目試験 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K 5800</td> </tr> <tr> <td>耐湿試験後の基盤目試験 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5800</td> </tr> <tr> <td>塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5800</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 基盤目試験の判定点は(一財)日本塗料検査協会「塗膜の評価基準」の標準判定写真による。</p>	項目	規格値	試験法	ゴムアスファルト系	不揮発分 (%)	50以上	JIS K 6833-1.2	粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]	5(0.5)以下	JIS K 6833-1.2	指触乾燥時間 (分)	90以下	JIS K 5800	低温風曲試験 (-10℃, 3mm)	合格	JIS K 5800	基盤目試験 (点)	10	JIS K 5800	耐湿試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5800	塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5800	JISの改正																																
項目	規格値	試験法																																																																																				
	ゴムアスファルト系																																																																																					
不揮発分 (%)	50以上	JIS K 6833-1.2																																																																																				
粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]	5(0.5)以下	JIS K 6833-1.2																																																																																				
指触乾燥時間 (分)	90以下	JIS K 5800																																																																																				
低温風曲試験 (-10℃, 3mm)	合格	JIS K 5800																																																																																				
基盤目試験 (点)	10	JIS K 5800																																																																																				
耐湿試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5804																																																																																				
塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5800																																																																																				
項目	規格値	試験法																																																																																				
	ゴムアスファルト系																																																																																					
不揮発分 (%)	50以上	JIS K 6833-1.2																																																																																				
粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]	5(0.5)以下	JIS K 6833-1.2																																																																																				
指触乾燥時間 (分)	90以下	JIS K 5800																																																																																				
低温風曲試験 (-10℃, 3mm)	合格	JIS K 5800																																																																																				
基盤目試験 (点)	10	JIS K 5800																																																																																				
耐湿試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5800																																																																																				
塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)	8以上	JIS K 5800																																																																																				
6	表1-2-1 土及び岩の分類表	<p>表1-2-1 土及び岩の分類表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">名称</th> <th rowspan="2">説明</th> <th rowspan="2">摘要</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">土</td> <td>礫質土</td> <td>礫まじり土</td> <td>礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの。</td> <td>礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土</td> <td>礫(G) 礫質土(GF)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂質土及び砂</td> <td>砂</td> <td>バケツ等(山盛り)形状になりにくいもの。</td> <td>海岸砂丘の砂</td> <td>砂(S)</td> </tr> <tr> <td>砂質土(普通土)</td> <td>掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。</td> <td>砂質土、マサ土</td> <td>砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム</td> <td>砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">粘性土</td> <td>粘性土</td> <td>バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。</td> <td>ローム粘性土</td> <td></td> <td>シルト(M) 粘性土(C)</td> </tr> <tr> <td>高含水比粘性土</td> <td>バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの。</td> <td>条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土</td> <td></td> <td>シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>岩塊 玉石</td> <td>岩塊 玉石</td> <td>岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。 岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるものを玉石とする。</td> <td>玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称			説明	摘要	A	B	C	土	礫質土	礫まじり土	礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの。	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土	礫(G) 礫質土(GF)	砂質土及び砂	砂	バケツ等(山盛り)形状になりにくいもの。	海岸砂丘の砂	砂(S)	砂質土(普通土)	掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。	砂質土、マサ土	砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム	砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)	粘性土	粘性土	バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。	ローム粘性土		シルト(M) 粘性土(C)	高含水比粘性土	バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの。	条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土		シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)		岩塊 玉石	岩塊 玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。 岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるものを玉石とする。	玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床		<p>表1-2-1 土及び岩の分類表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">名称</th> <th rowspan="2">説明</th> <th rowspan="2">摘要</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">土</td> <td>礫質土</td> <td>礫まじり土</td> <td>礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの。</td> <td>礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土</td> <td>礫(G) 礫質土(GF)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂質土及び砂</td> <td>砂</td> <td>バケツ等(山盛り)形状になりにくいもの。</td> <td>海岸砂丘の砂</td> <td>砂(S)</td> </tr> <tr> <td>砂質土(普通土)</td> <td>掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。</td> <td>砂質土、マサ土</td> <td>砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム</td> <td>砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">粘性土</td> <td>粘性土</td> <td>バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。</td> <td>ローム粘性土</td> <td></td> <td>シルト(M) 粘性土(C)</td> </tr> <tr> <td>高含水比粘性土</td> <td>バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの。</td> <td>条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土</td> <td></td> <td>シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>岩塊 玉石</td> <td>岩塊 玉石</td> <td>岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。 岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるものを玉石とする。</td> <td>玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称			説明	摘要	A	B	C	土	礫質土	礫まじり土	礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの。	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土	礫(G) 礫質土(GF)	砂質土及び砂	砂	バケツ等(山盛り)形状になりにくいもの。	海岸砂丘の砂	砂(S)	砂質土(普通土)	掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。	砂質土、マサ土	砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム	砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)	粘性土	粘性土	バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。	ローム粘性土		シルト(M) 粘性土(C)	高含水比粘性土	バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの。	条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土		シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)		岩塊 玉石	岩塊 玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。 岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるものを玉石とする。	玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床		誤字
名称			説明	摘要																																																																																		
A	B	C																																																																																				
土	礫質土	礫まじり土	礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの。	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土	礫(G) 礫質土(GF)																																																																																	
	砂質土及び砂	砂	バケツ等(山盛り)形状になりにくいもの。	海岸砂丘の砂	砂(S)																																																																																	
		砂質土(普通土)	掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。	砂質土、マサ土	砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム	砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)																																																																																
	粘性土	粘性土	バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。	ローム粘性土		シルト(M) 粘性土(C)																																																																																
高含水比粘性土		バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの。	条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土		シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)																																																																																	
	岩塊 玉石	岩塊 玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。 岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるものを玉石とする。	玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床																																																																																		
名称			説明	摘要																																																																																		
A	B	C																																																																																				
土	礫質土	礫まじり土	礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの。	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土	礫(G) 礫質土(GF)																																																																																	
	砂質土及び砂	砂	バケツ等(山盛り)形状になりにくいもの。	海岸砂丘の砂	砂(S)																																																																																	
		砂質土(普通土)	掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空けきの少ないもの。	砂質土、マサ土	砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム	砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)																																																																																
	粘性土	粘性土	バケツ等に付着し易く空けきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。	ローム粘性土		シルト(M) 粘性土(C)																																																																																
高含水比粘性土		バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの。	条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土		シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性(V) 有機質土(O)																																																																																	
	岩塊 玉石	岩塊 玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空けきのでき易いもの。 岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるものを玉石とする。	玉石まじり土 岩塊 破碎された岩 ごろごろした河床																																																																																		

No.	図表番号等	現行	修正後	修正内容																				
7	表3-2-26 マーシャル安定度試験基準値	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">表3-2-26 マーシャル安定度試験基準値</th> </tr> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空げき率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table>	表3-2-26 マーシャル安定度試験基準値		項 目	基 準 値	安定度 kN	3.43以上	フロー値 (1/100cm)	10~40	空 げ き率 (%)	3~12	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">表3-2-26 マーシャル安定度試験基準値</th> </tr> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table>	表3-2-26 マーシャル安定度試験基準値		項 目	基 準 値	安定度 kN	3.43以上	フロー値 (1/100cm)	10~40	空 隙 率 (%)	3~12	誤字
表3-2-26 マーシャル安定度試験基準値																								
項 目	基 準 値																							
安定度 kN	3.43以上																							
フロー値 (1/100cm)	10~40																							
空 げ き率 (%)	3~12																							
表3-2-26 マーシャル安定度試験基準値																								
項 目	基 準 値																							
安定度 kN	3.43以上																							
フロー値 (1/100cm)	10~40																							
空 隙 率 (%)	3~12																							
8	表3-2-40 マーシャル安定度試験基準値	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">表3-2-40 マーシャル安定度試験基準値</th> </tr> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空げき率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table>	表3-2-40 マーシャル安定度試験基準値		項 目	基 準 値	安定度 kN	3.43以上	フロー値 (1/100cm)	10~40	空 げ き率 (%)	3~12	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">表3-2-40 マーシャル安定度試験基準値</th> </tr> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table>	表3-2-40 マーシャル安定度試験基準値		項 目	基 準 値	安定度 kN	3.43以上	フロー値 (1/100cm)	10~40	空 隙 率 (%)	3~12	誤字
表3-2-40 マーシャル安定度試験基準値																								
項 目	基 準 値																							
安定度 kN	3.43以上																							
フロー値 (1/100cm)	10~40																							
空 げ き率 (%)	3~12																							
表3-2-40 マーシャル安定度試験基準値																								
項 目	基 準 値																							
安定度 kN	3.43以上																							
フロー値 (1/100cm)	10~40																							
空 隙 率 (%)	3~12																							